

第10回技術情報検討会議事概要

1. 日 時:平成26年9月27日(月) 10:00~11:30

2. 場 所:原子力規制委員会13階 B 会議室

3. 出席者:

原子力規制委員会

更田委員

原子力規制庁

平野技術総括審議官、竹内原子力安全技術総括官、櫻田規制部長、山本審議官、大村審議官、佐藤原子力規制企画課長、山形安全規制管理官(BWR)、市村安全規制調整官(PWR)、澤田安全規制管理官(発電炉検査)、黒村安全規制管理官(新型炉・試験研究炉・廃止措置)、南山安全規制管理官(廃棄物・貯蔵・輸送))、山田技術基盤課長、小林安全技術管理官(システム安全)、梶本安全技術管理官(シビアアクシデント)、内田安全技術管理官(核燃料廃棄物)、小林企画官(地震・津波)、武山事故対処室長

二宮品質管理専門官、大野係長、松井係長

事務局

石井企画官、小林課長補佐、有吉課長補佐、伊藤専門職

4. 議題: (1)技術情報の検討について

(2)その他

5. 議事要旨

(1)事務局より、議題(1)「技術情報の検討について」について、資料の順に従って説明した。

○事務局より、「第9回技術情報検討会議事概要」(資料10-1)、「スクリーニングと要対応技術情報の状況」(資料10-2)、「2次スクリーニングの検討状況」(資料10-3)及び「要対応情報とするために更なる調査を必要とする案件」(資料10-4)について説明があり、了解された。

○「格納容器貫通部、メカニカルシール、及びその他の機器においてテフロン材が劣化する可能性」に係る原子力規制庁の対応方針について(資料10-5)

・設計基準事故のみでなく、重大事故条件も考慮して適切な材料が選定されていることを確認する必要がある。

・事業者に本件の事例を紹介して、適切な材料が使用されているか確認させるなどの対応方針を検討することとなった。

○事務局より、「要対応技術情報リスト(累積)」(資料10-6)について説明し、了解を得た。

○事務局より、「プラント長期停止に関する事例について」(資料10-7)について紹介した。

○調達管理に係る国内外の規制の対応状況(資料10-8)について

・本件は、海外におけるベンダー不具合の連絡不徹底に関するものである。国内規制では品質保証に係る規制要求事項を踏まえ、ベンダーからの不具合情報の提供について、事業者とベンダーの間で契約を行っているが、今後も海外情報を調査し、有益な事項があれば国内に反映する。

○「1次スクリーニング結果」(参考資料10-1)について

・IN 2014-02「原子炉フランジリークオフラインの適切な圧力試験の不履行」について、原子炉フランジリークオフラインは物理的に設計条件における試験が行えないため、我が国の規格基準では要求していないことから、検討終了とした。その旨、記載を充実させて見直す。

(2)その他

○学会発表や論文、OECD/NEAにおけるSCAPS等のレポートについて、必要と思われる案件について整理し、技術基盤 Gr から規制企画課に情報提供する。

以上